

平成 27 年度弘前大学グローバル人材育成事業モデル事業

学 生 市 民 等 協 働 プ ロ グ ラ ム 報 告 書

申 請 者	所属部局・職名	保健学研究科
	氏 名	藤田 俊文
事 業 名	学生市民等協働プログラム ニュージーランドにおける食と運動に着目した健康関連分野の調査	
事業の概要とその成果		
【事業概要】 ニュージーランドは自然が豊かで、1 次産業として家畜、酪農、農業、水産業などが行なわれており、その中でも羊肉、牛肉、魚介類(サーモン、牡蠣など)、フルーツ(キウイフルーツなど)が有名である。加えて大自然を利用したアクティビティやラグビー、クリケット、ヨットなどのスポーツも盛んで世界的にも有名である。反面、ニュージーランドは肥満や糖尿病罹患率の上昇、また日本と同様に高齢化社会となっており、そのような点でも健康関連への取り組みが重要となる。また、オタゴ大学健康科学部理学療法学科は、世界で最も古い理学療法学科であり健康関連分野へも積極的に取り組んでいる。 そこで、ニュージーランドの健康に関わる食と運動(スポーツ含む)の現状、オタゴ大学における健康関連分野の現状調査(特に理学療法学科における調査など)、英語による講義聴講ならびにニュージーランドの理学療法士および理学療法学生との意見交換を通して、国際的な視点で食と運動といった健康関連の産業創出、さらには幅広い年代を対象に食と運動に関する啓発活動などを通して弘前市の地域活性化に貢献できる人材を育成する。		
【目 的】 <ul style="list-style-type: none">● ニュージーランドの食と運動の現状や大自然を利用したアクティビティ、スポーツの状況の調査および視察を実施するとともに、健康関連分野におけるオタゴ大学の理学療法学科としての関わりや実情について調査する。またオタゴ大学において英語での講義や意見交換を通して国際的な感覚を養う。● オタゴ大学の地域における健康関連の取り組みの視察を通して、その利点と欠点、および日本に将来取り入れるべき考え方を習得する。● リハビリテーションの専門職の養成施設(特に理学療法学科)を見学し、外国の専門職養成の理念と日本の専門職養成の理念の違いを学ぶ。● 英語による講義の聴講や、ニュージーランドの学生との交流を通して国際的感覚や視点を学ぶ。● 観光都市であるオークランドおよびオタゴ大学がある学園都市ダニーデン周辺の食や健康関連施設などの視察を通して、弘前市の食や健康関連施設に関するまちづくりのヒントとなるものを学ぶ。		
【日程及び事業内容】 ＜日程＞ 旅行期間:平成 27 年 9 月 9 日(水)～9 月 17 日(木) スケジュール:(下記以外は国内外の移動日) ・9 月 9 日～10 日 移動日(青森→東京→オークランド→ダニーデン)		

・9月11日 ダニーデン

オタゴ大学理学療法学科での講義(健康関連事業の取り組みの実際とニュージーランドの機能性食品について)、同学科大学院生および教員との意見交換会・交流会

・9月12日 ダニーデン周辺の運動関連施設の視察、食材調査

・9月13日 移動日(ダニーデン→オークランド)

・9月14日 オークランド(ワイヘケ島) 農場視察

・9月15日 オークランド市街視察

・9月16日～17日 移動日(オークランド→東京→青森)

【研修・視察内容】

1. オタゴ大学(キャンパス内)の見学

国際交流課の Iby さんより、オタゴ大学内の施設見学・説明を受けた。オタゴ大学はグローバルな人材育成を行っており、学部生・大学院生とも留学生も多数受け入れているとのことであった。また、大学内の図書館は、設備も整っており、書籍はもちろんのこと、インターネット環境や個別スペース、グループワークスのスペースなど、常に学生が自己研鑽できる場となっており多数の学生が利用していた。



2. オタゴ大学理学療法学科の見学

オタゴ大学の理学療法学科は、1913年に世界で最初に設立された理学療法士養成校で、100年以上の

歴史がある。また、理学療法分野にかかわらず地域に根ざしたさまざまな研究活動も実施している。理学療法学科では、校舎1階にクリニックが併設されており、4年次臨床実習で積極的に活用されている。理学療法関連機器として、国内に数台しかない前庭系評価システムや3次元解析装置などが設置されていた。



3. 理学療法学科における健康関連の取り組みについての研修

理学療法学科で取り組んでいる健康関連の報告を受けた。今回の視察のテーマである、食と運動についての調査や取り組みを中心に、大学院生による研究内容の紹介があった。ニュージーランドの食文化や運動習慣などについて学んだ。また、グループに分かれて訪問した学生と大学院生・教員との意見交換会や交流会を実施した。



About New Zealand



NEW ZEALAND COME VISIT US DOWN UNDER

- Average age 37yrs
- 20% over 60yrs old
- Healthcare budget NZ\$15,868,381,000 (JPY1 trillion)



NEW ZEALAND IT'S NOT GOING ANYWHERE

4.4m people
75% European
15% Māori
12% Asian
8% Pacific people



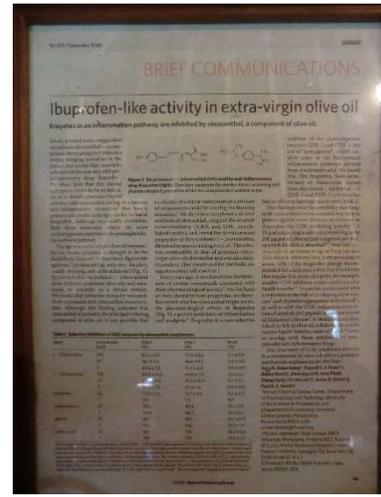
4. ダニーデン市内での食の調査

ダニーデン市内で販売されている食材について調査した。1次産業が中心のニュージーランドで生産されている野菜や果物、肉、乳製品、魚介類などを調査した。弘前市では見られない珍しい野菜や果物があり、また肉類は量が多くて安く、乳製品も豊富であった。ニュージーランド特有の魚介類なども調査することができた。外食は1人前の量が多く、また様々な食事にフライドポテトが添えてあり、炭水化物消費量が多い印象であった。



5. オークランド郊外農場視察

北島に位置するオークランド郊外のワイヘキ島にある農園(ブドウ・オリーブ)視察を行った。このワイヘキ島は、オークランドよりフェリーにて約35分のところにあり、12ヶ所以上のワイナリーが存在し、さまざまなアクティビティが体験できる観光地となっている。ここでは、3ヶ所の農場を視察し、その風土特有の気候を活かした栽培や観光地としてのあり方を視察することが出来た。



【本事業における成果】

本事業では、「食」と「運動」をキーワードにニュージーランドにおける現状を調査した。

ニュージーランドでも歴史があるオタゴ大学の理学療法学科の協力の下、ニュージーランドにおける「食」と「運動」に関する講義を受けることができ、ニュージーランドの現状を知ることが出来た。また、英語での講義ではあったが、健康関連の講義であることから学生にとっても比較的わかりやすい内容であった。加えて、オタゴ大学は留学生も多く、交流会では大学院生が各国から来ているということからも、グローバルな意見交換会が実施できたのは、学生にとっても大変よい経験となった。

グローバルな視点でローカルな部分を見る、という考えで今回の視察を実施したが、多国籍の中での意見交換では、自国のこと、特に文化や歴史をしっかりと把握したうえで、自分の意見を述べることの重要性を認識するきっかけとなった。つまり、弘前市の文化や歴史、風土、など、ローカルな部分をしっかりと知ることが重要であり、その上でグローバルな視点を持てる人材を育成することの重要性を感じた視察となった。

最後に、今回のプログラムを通して、理学療法という専門職としての視点だけではなく、弘前市民としてローカルな部分を知りグローバルに行動できる人材育成の重要性を確認できたことは大きな成果である。また、国際的な視点で「食」と「運動」といった健康関連の産業創出や、幅広い年代・職種などを対象に「食」と「運動」をキーワードに弘前市の地域活性化を図るための情報を知り得たことは重要と考えている。

以上